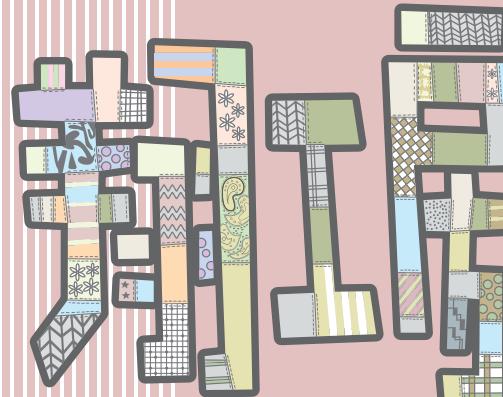




学生のアイデア×匠の技

財団法人 一宮地場産業ファッションデザインセンター
www.fdc138.com/fashion/seminar/syo/
ロゴマーク制作者 外山 栄(中部ファッション専門学校 2011)

平成25年2月発行



shokobo

学生のアイデア×匠の技



財団法人 一宮地場産業ファッションデザインセンター



翔工房とは

アパレル製品を開発するためには、抽象的なアイデアやイメージをテキスタイルやガーメントという具体的な製品に落とし込むという企画の力が必要となります。

翔工房は、ファッショング業界の各方面での活躍を期待される学生に対して、こうした企画力を早い段階から醸成する目的で創設されました。ファッショング業界を担う学生にとって、創造するアイデア・イメージから実際の製品になるまでの一つ一つの現場や工程を目で見て、肌で触ることは非常に貴重な経験であり、将来の糧となります。

学生の斬新なアイデアを基に、学生と経験豊富な「匠の技」をもつ技術者とのコラボレーションによって、この世に一つしかないテキスタイルが生み出されます。

果たしてこの素材から、学生自身はどのようなガーメントを製作するのでしょうか……

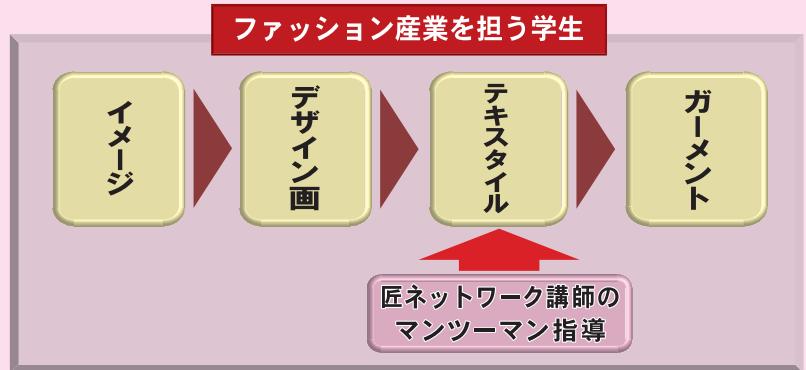
若者は未来の尾州を支える要諦です。

FDCは翔工房を通じて、ファッショング業界、尾州産地の将来のために、可能性に満ちた才知溢れる種をまきます。



翔工房の流れ

学生がイメージを基に、思い思いのガーメントを製作します。翔工房では、その素材となるテキスタイルの製作について、その糸から完成までの工程を、卓越した技術と能力を兼ね備えた「匠ネットワーク」のメンバーを講師として招聘し支援していきます。



■スケジュール■

4月	学校を通じ参加学生を募集
5月	オリエンテーションによる参加学生の決定
7月	第1回合同打ち合わせ会
7~10月	テキスタイル製作（5~8回程度）
9月	第2回合同打ち合わせ会
10月	第3回合同打ち合わせ会
11~12月	ガーメントの製作
1月	第4回合同打ち合わせ会
2月	総合展「THE 尾州」でガーメントの展示

F.S

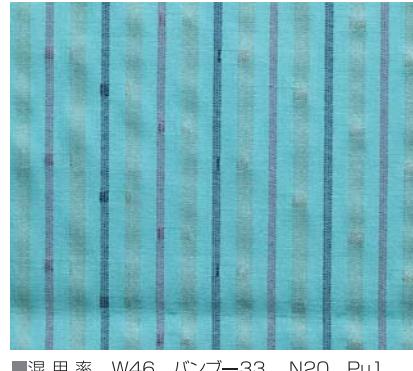


●当初のイメージとの比較

当初のイメージとは少し違ったものになったかなと感じましたが、単なるシマだけではなく、組織で織り方を変える事で、角度によって変化のあるテキスタイルになりました。

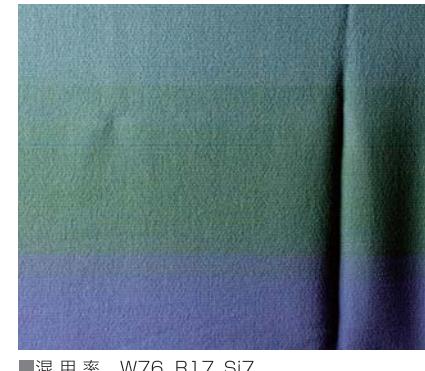
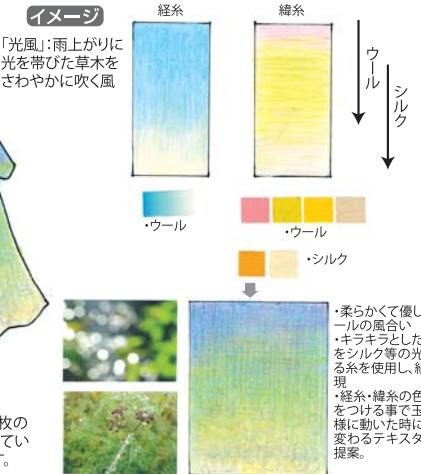
●新たな発見や学んだ点、苦労した点

当初は紡を使いたいと考えていましたが、技術的に難しいのがわかり、紡を使わず表現したことが最も苦労しました。自分自身では答えが見つからず、講師の支援を受けながら試行錯誤しました。



●製作にあたって

尾州の特産である毛織物は、その広大な平野といくつもの川の豊富な水がもたらした自然の産物ということで、織物の原点である「自然」をコンセプトに、雨が降っていても着ていてハッピーになれる布を作りたいです。生地は尾州の特長であるウールを使い、雨をイメージさせる経糸を使いたいです。また、ところどころぼこぼこしたような糸を織り込むことで、薄手のウール地ですが、触ると立体感のある仕上がりにしたいです。色々な変わり糸が雨のように降る形にしたいと思います。



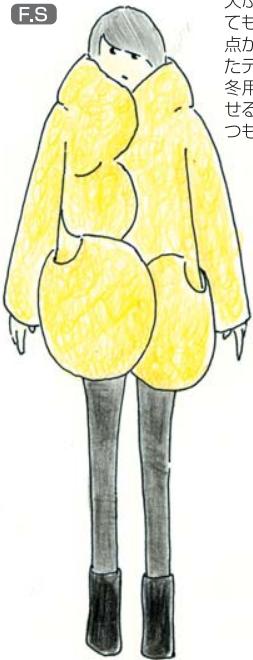
●当初のイメージとの比較

当初イメージしていた表情が角度によって変わるテキスタイルは、ほぼイメージ通りに出来上がりいました。想像よりもボリュームのある風合になりましたが、とても柔らかく仕上がりました。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

染色や織設計を手織りより厳密に先を想像しながら決定していく事に、知識と経験の大切さを学びました。同時に、様々な表現を生み出せる可能性を知り、今までよりもっと深く学びたいと思いました。

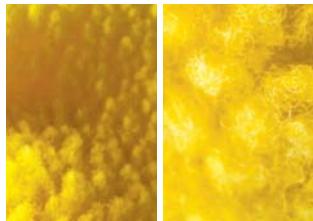
F.S



B.S



イメージ



●製作にあたって

天ぷらの衣をテーマに空気感のあるテキスタイルをデザインしました。料理においてもファッションにおいても、「衣」は包むものを引き立たせたり、守ったりする共通点があることに面白さを感じました。衣の持つふんわりとした空気感とボコボコとしたテクスチャーをテキスタイルで表現したいです。完成したテキスタイルは女性の冬用のコートに仕立てます。丸いポケットやボリュームのあるフードで衣の表情を出せるようにデザインしました。尾州産地の特長であるウールを使用して、厚地ありつつも、ふわふわと身体を温かく包み込むような織物に仕上げたいです。

●当初のイメージとの比較

最初にサンプルにしたもののがニットだったので、それをどうやって織で表現できるかが課題でしたが、完成したものの風合はイメージとかなり近いものができました。仕上加工を2箇所でお願いし、風合の異なるものができました。2種類の中間ぐらいの風合と肉厚感ができればもっとイメージに近くなったと思います。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

打ち合わせから仕上加工を通じて、テキスタイルがどのように作られるかを実感することができました。手織では難しかった組織の表現や仕上がり可能な反面、手仕事の微妙な加減ができないことを知ることができました。いろいろな制約の中で最高のものを作ることの難しさがあることを強く感じました。



■混用率 W98 N1 Pu1

F.S



黒崎 美曜(川島テキスタイルスクール)

×飯田 耕三

B.S



イメージ



●当初のイメージとの比較

キノコという有機的なイメージとはすいぶん印象が変わりました。期待していたほど、地と起毛部分のコントラストが出なかったので残念でしたが、風合はとても柔らかく、エアリーで温かうなで良かったです。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

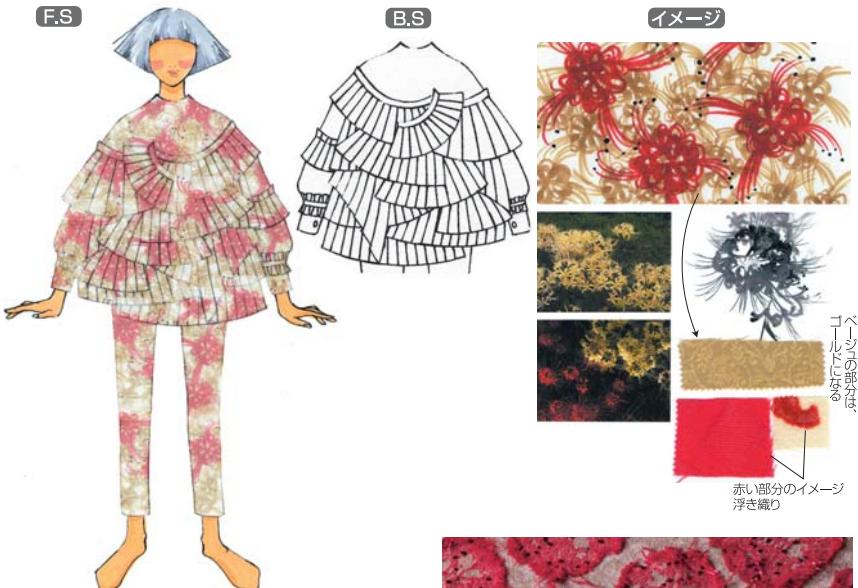
なかなか途中で組織を変えたりなどの変更ができないため、理想だけで話を進めてしまい、機転が利かなくなってしまったところにいたずら難しかったです。



■混用率 W86 Ap7 N7

●製作にあたって

「日本」をテーマに柄のデザインをしました。彼岸花をモチーフにして、着物の生地のように表現したいです。中国原産の彼岸花ですが、幼かった頃、私の家の近くにたくさん咲いていました。葉が1枚も無い長く伸びた茎の先端に真っ赤な花が咲く姿に、不気味で強いイメージを昔から感じていました。しかし、その真っ直ぐに咲く姿は、自分をあげない潔い日本の侍を連想させます。服のデザインでは侍のズボンの髪や扇子、三昧線のバチなどをイメージしました。素材は、襞を綺麗に表現したいので、シワになりにくくするために、尾州産地の特長のウールに、少しポリエステルを混紡させたいです。柄の表現はページの彼岸花の上に、赤い彼岸花が乗っているような感じで織り、赤い花を浮き織りで表現したいです。

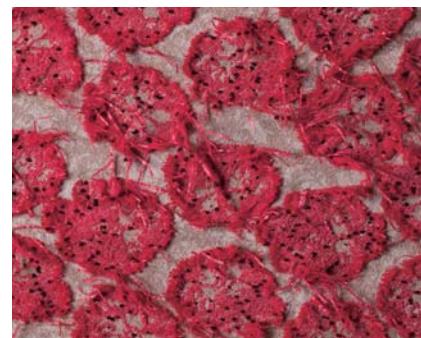


●当初のイメージとの比較

柄を特徴としたデザインなので、紋紙について悩みました。講師とともに試行錯誤した結果、予想したものとは少し異なりますが、当初のイメージに近づけました。彼岸花の特徴でもある長く伸びた雌しべを表現する際、糸を浮かせて残すという発想は無かったのですが、結果的にイメージ以上のものができました。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

ものづくりを共同で行う際、イメージの共有がいかに大切かということを再確認しました。与えられた条件の中で、完成させるという事で、課題は沢山ありましたが、とても良い経験になりました。



■混用率 Pe32 W28 キャメル20 N13 Ac7

●製作にあたって

3種類の毛質の羊毛を用いたテキスタイルです。クリンプを残したふわわりとした毛触りのチェック柄で、種類が違う毛質が折り合うところが魅力です。羊毛は、染めたものではなく、元の毛色を活かしたナチュラルな色目としました。ウール得意とする尾州産地だからこそ、持ち味が生かせる生地に仕上がると思います。スタイルはチェック柄を主体とした形にし、一つ一つの柄のリピートを大きく目立たせたメンズコートです。



●当初のイメージとの比較

染色を施さないナチュラルな羊毛のイメージがそのまま当てはまるテキスタイルに仕上りました。メンズテキスタイルなので、パリッとした質感にしたことで、イメージ以上に上質さを表現できました。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

大学では、テキスタイルを専攻しています。糸を織機にかけた際の経糸の耐久性は、実際に織ってみてはじめて確認できるということに驚きました。糸の強度を高める方法も、双糸に更に糸を増やしたり、よりどめに時間をかけるなど様々で勉強になりました。



■混用率 Ap94 W4 N2

F.S



B.S



イメージ

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

新しいものを作っていくには想像を形にすることですが、イメージをいかにイメージ通りに表現していくかが難しかったです。



■混用率 バンブー56 N24 C20

F.S



B.S



イメージ

織り込むのが難しいのであればスパンコールなどのものや、糸自体に光沢のあるものでもいいと考えています。

●当初のイメージとの比較

ほぼイメージ通りです。レトロな色とさわやかな色もはじめに選んだ通りの色ができました。



■混用率 C52 Li37 和紙11

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

「カット」という技法初めて知りました。実際に体験することで、余分な部分を自らで切り取るのが大変でした。織の際に模様の丸が楕円状になりましたが、修正できませんでした。ビーズを織り込んだテキスタイルは、織機では不可能で手作業となりました。



■混用率 C48 N31 ビーズ11 Pe10

F.S



●製作にあたって

イメージは猫の肉球です。猫の自由でふわふわした感じのテキスタイルに仕上げたいです。バルーンスカートにしたいので、やわらかいふわふわした生地に仕上がるようになります。肉球の部分がくくくとした凹凸になるようにし、猫のふわふわ感ややわらかさが見たり、触ったりして分かるような質感にしたいです。猫がとても好きなので、同じ猫好きの人に喜んでもらえるようなテキスタイルを作りたいです。

B.S

イメージ



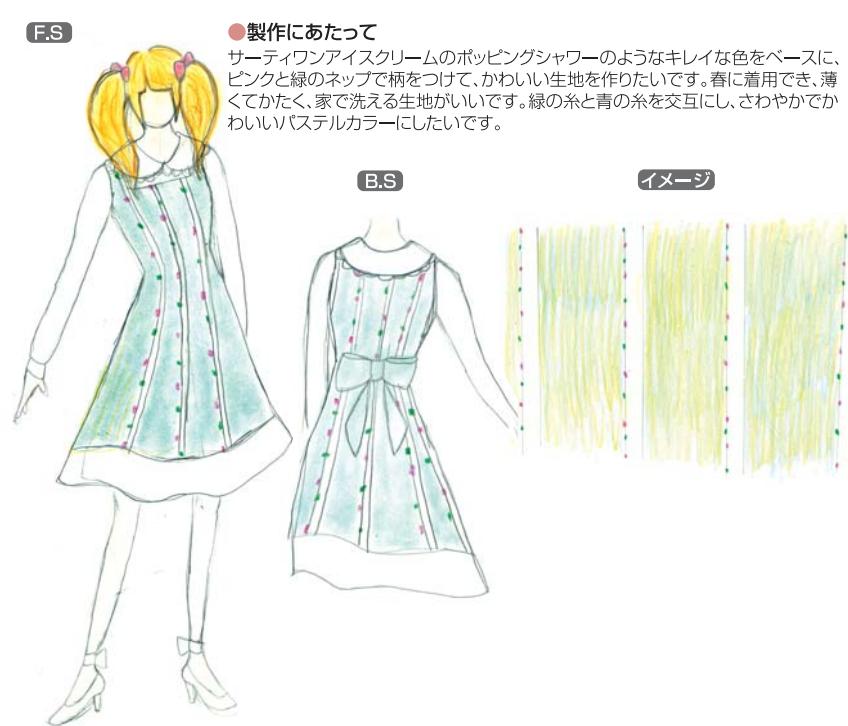
●当初のイメージとの比較

当初のイメージ通りに、肉球一つ一つを違う色にすることはできませんでしたが、春らしい猫の自由な感じはよく表現でき、素敵なテキスタイルになりました。



■混用率 C47 W32 Ag10 N10 Ac1

F.S

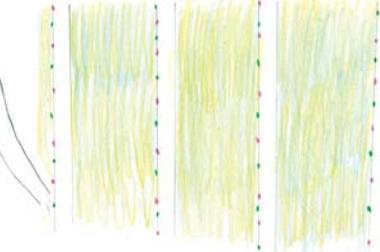


●製作にあたって

サーティワンアイスクリームのポッピングシャワーのようなキレイな色をベースに、ピンクと緑のネップで柄をつけて、かわいい生地を作りたいです。春に着用でき、薄くてかたく、家で洗える生地がいいです。緑の糸と青の糸を交互にし、さわやかでかわいいパステルカラーにしたいです。

B.S

イメージ



●新たな発見や学んだ点、苦労した点

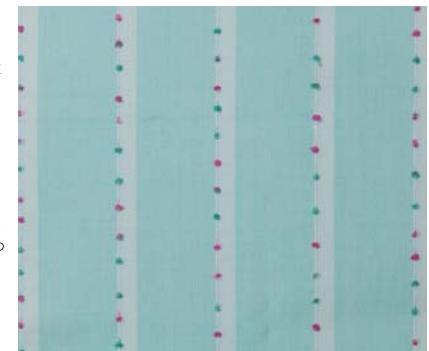
自分のイメージを言葉にして相手に伝えることの難しさ、そして今回のように作るにあたっての制約がある場合、講師との相互に納得して形にしていくための努力の大切さを学べました。イメージしたデザインに近づけるよう、けれどどこまで妥協しなければならないかを考えつつ、講師と密に話し合いました。

●当初のイメージとの比較

当初に考えたイメージのまま完成できました。ネップと生地の色合いがとてもかわいらしく想像通りにできてよかったです。

●新たな発見や学んだ点、苦労した点

絹の糸にネップを入れると、絡まって作りにくいことや、糸の色がとてもたくさんあること、実際にどのように織っているのかなど布について色々発見できました。



■混用率 W98 Ac2